

作家遠藤周作氏生誕100年記念展

7組 齋藤良夫

「母親や愛する人の顔写真を、あなたは土足で踏み付けられますか。私なら踏めます---」。こう語るのは作家の遠藤周作氏。何故なら、踏まないと本人はじめ家族、更には関係者を皆殺しにするとされているからです。キリストやマリアの絵などを心ならずも踏んだキリスト教徒。「隠れキリシタン」の中には、こうした“罪”を心に秘めて過ごしていた信者も多かったのです。小説『沈黙』の遠藤氏の執筆動機です----

今年は遠藤周作氏（1923年3月27日～1996年9月29日）の生誕100年です。その記念展が長崎市で開催中です。生誕100年情報は東京・町田市民文学館で知りました。私は町田市にある前立腺クリニックに毎月一回通院しています。大学病院での手術担当医が独立して町田で開業したためです。このクリニックの近くに文学館があり診察前に足を運んでいますが、文学館は遠藤氏の蔵書の寄託を受けてオープンしたのです。町田市民文学館での「遠藤周作氏生誕100年記念展」は、長崎での展示を引き継ぐ形で9月から予定されています。遠藤作品は、『沈黙』や『深い河』など重い作品が目立ちますが、一方で、遠藤氏には「狐狸庵」先生の異名があります。

「巡回採食労働者」。遠藤氏が名付けた「浮浪者」の別名です。遠藤氏は週刊読売の対談を担当していました。誰か変わった人はいないのか、と言う遠藤氏の要望に応じて担当記者から私に電話がかかってきました。当時、私は社会部記者で路上生活者の林光一氏（1918年～1998年）とお付き合いをし、記事でも紹介していました。林氏は早稲田大学中退の“インテリ浮浪者”でしたが、この「浮浪」が「浮浪の罪」（軽犯罪法）で犯罪者扱いを嫌った林氏の話の中から「巡回採食労働者」の名前が生まれたのです。林氏は後に『ルンペン学入門』（ペップ出版）を出版し、遠藤氏が帯に推薦文を書いています。また、林氏作詞の『ノガミ（上野のこと）パラダイス』を今も時々なぎら健吉さんが歌っています----

私は遠藤周作氏の著作とはご無沙汰ですが、今は時々YouTubeで『あなたはあなたを知っているか』、『日本人とキリスト教』などのアーカイブズ講演を聞いています。奥が深い内容です。が、ベッドで聞いているとそのまま寝入ってしまうことが多く、私にとっては“格好の睡眠講演”(!?)になっています。遠藤周作さま、ごめんなさい。どうかご寛恕を----

それでは、また----

遠藤周作誕生100年

沈黙と好奇心の旅へ

ENDO SHUSAKU  
LITERARY MUSEUM

ロゴマークは、文学館のステンドグラスや遠藤作品の世界観をイメージする深い海を思わせるような青いステンドグラスを背景に、遠藤先生の似顔絵をモチーフにしたデザインです。

キャッチコピーは、遠藤文学を連想させる「沈黙」という言葉と、遠藤先生のユーモアあふれる人物像を表現する「好奇心」という二つの言葉で、その多面的な魅力を伝えるとともに、「遠藤文学の世界への旅」と「文学館へのリアルな旅」の二つの旅にぎなうメッセージを込めています。

深い河

脚本: 遠藤周作 監督: 高木孝浩 主演: 宮崎あおい

沈黙 遠藤周作

母の事を考える  
母がまた種のことを

— 母と二人で二十三年 —

Endo Shusaku Literary Museum

25年  
没後  
記念企画展

遠藤周作  
母をめぐる旅

— 『沈黙』から『侍』へ —

[会期] 2021年9月29日(水)～2023年3月24日(金)  
[会場] 長崎市遠藤周作文学館 第二展示室

長崎市遠藤周作文学館

〒851-2327 長崎市東出津町77番地 TEL.0959-37-6011 FAX.0959-25-1443  
■開館時間/9:00～17:00(入館受付は16:30まで) ■休 日/12月29日～1月3日  
■料 金/一般～360(260)円、小中学生～200(100)円(1日10名以上の団体料金)

1923

1955 (昭和30) 1958 (昭和33) 1966 (昭和41) 1973 (昭和48)

生誕100年特別企画展

100歳の遠藤周作に出会う

2023 3/27(月)～2024 9/26(木)

観覧時間 午前10時～午後5時(入館受付は午後4時30分まで)

休 日 12月29日～1月3日

料 金 一般 360(260)円、小・中・高校生 200(100)円 (1日10名以上の団体料金)

場 所 長崎市遠藤周作文学館

「努力と精進を重ねて学ぶという姿勢を、ぼくは否定するつもりはない。そういう人は自分なりの人生観をもってやっているんだから。だけど、大半の人たちは、自分の意志の弱さを嘆いている弱者です。そういう人間が、強者と伍して生きていく知恵、方法だってあるんだということを知ってもらいたい」

沈黙と好奇心の旅へ

ENDO SHUSAKU 100th ANNIVERSARY

生誕100年特別企画展 100歳の遠藤周作に出会う 遠藤周作文学館

2023 3/27(月)～2024 9/26(木)

遠藤周作 狐狸庵閑話

新潮文庫

- 1 あなたの理解者はあなたにおいて他にはない
  - 2 あなたは自分をどのくらい信じているか
  - 3 人間は一人で生きるべき存在か
  - 4 あなたにとっていま一番大切なもの
  - 5 ひとりの人間に与えられた絶対的規則
  - 6 一度は自分の心に闘いつめるべきこと
  - 7 できるだけ苦勞しないですむ生き方
  - 8 ひとりの自分とどうつき合っていくか
  - 9 表の顔 裏の顔 もう一つの顔
  - 10 あなたは何に生きてみたいか
  - 11 あなたの中の「害虫」と仲良く暮らす方法
  - 12 二枚目を受けた不幸 三枚目を受けた幸せ
  - 13 その人と自分とどちらが大切になるか
  - 14 人生を狂わせてしまう一瞬の時
  - 15 人間はどこまで正直に生きられるか
  - 16 他人を愛せない人は自分を愛せない
- エビローグ ほんとうに自分を愛せるか

えんどう しゅうさく 遠藤 周作 展

1923(大正12)～1996(平成8)年



「あなたはあなたを知っているか」1987年



飄孤蕭々 二田原英二作(1983年)

長崎・島原半島の村長民の別荘に滞在したアラン・ドワダ

遠藤周作先生の軽井沢の別荘に遊ぶ冬枯れの日。庭先に行き先生の姿は孤然を抱いて飄々蕭々。私はその孤影に心惹かれ、所蔵の拙作『飄孤蕭々』を寫す傍らにと。

